慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	フヨウ属植物根から粘質物の単離と多糖部の構造
Sub Title	
Author	友田, 正司(Tomoda, Masashi) 嶋田, 和代(Shimada, Kazuyo) 清水, 訓子(Shimizu, Noriko) 金成, 美枝子(Kanari, Mieko) 金子, 恵美子(Kaneko, Emiko)
Publisher	共立薬科大学
Publication year	1985
Jtitle	共立薬科大学研究年報 (The annual report of the Kyoritsu College of Pharmacy). No.30 (1985.) ,p.119- 119
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	学会講演要旨
Genre	Technical Report
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062898-00000030-0120

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

hyl-, 2,4-di-*O*-methyl-の各誘導体が，1.2: 9.0: 1.0 のモル比で得られ，基質1モルあたりの過ヨウ素酸消費は 1.5 モル，ギ酸生成は 0.9 モルであった。

〔**考察・結論**〕 α-1→6 結合の D-Glucopyranose 単位から成る主鎖を有し，構成糖約 11 分子あたり各1分子の比率で，α-1→3 結合による分枝単位と非還元末端が存在する。この構造様式は，人参の血糖降下活性成分である Panaxan の主体をなす多糖部と同様であるが，分枝度は Panaxan に比べて格段に低い。

* 東北大学薬学部

フヨウ属植物根から粘質物の単離と多糖部の構造

友田正司，嶋田和代，清水訓子，金成美枝子，金子恵美子

〔日本薬学会 第105年会（1985年4月，金沢）で発表〕

〔**目的**〕 これまでアオイ科の *Althaea* 属および *Abelmoschus* 属の各種植物起原生薬の主粘質物を単離精製し，8種の物質の主要構造について共通点と相違点を明らかにしたが，今回 *Hibischus* 属2種植物の根から主粘質物を得て，構造を比較研究した。

〔**実験**〕 新鮮な根の水抽出で得た粗粘質物を，CTAB による沈澱法，次いで Sephacryl S-300 を用いたクロマトグラフィーによって精製物を得た。構成分を比色法と加水分解物の TLC および誘導体の GLC で分析し，Carbodiimide 試薬と $NaBH_4$ を用いて誘導したカルボキシル還元成績体について，メチル化後加水分解し，アルディトールアセテートに誘導して GC-MS で確認し，部分加水分解成績体の研究も併用して多糖部の構造について調べた。

〔**実験結果**〕 アメリカフヨウ根およびモミジアオイ根から，電気泳動およびゲルクロマトグラフィーなどで単一性を確認した粘質物を得た。前者はラムノース：ガラクツロン酸：グルクロン酸（モル比，1:1:1）を構成糖とするが，多糖部が比較的少ない複合体で，カルボキシル還元成績体のメチル化分析で 3,4-di-*O*-methyl-L-Rha, 2,3,4,6-tetra-*O*-methyl-D-Glc, 2,6-di-*O*-methyl-D-Gal のほぼ等モル生成を確認した。

〔**考察・結論**〕 多糖部は他のアオイ科植物粘質物と共通の基本構造単位を有するが，後者は構成ガラクツロン酸の分枝度が異なる。

アオイ科植物粘質物基本構造オリゴ糖の ^{13}C-NMR スペクトル

清水訓子，友田正司

〔日本薬学会 第105年会（1985年4月，金沢）で発表〕

〔**目的**〕 アオイ科植物起原の主要生薬から得た各種粘質物には共通的基本骨格構造が認められ，粘質物の部分加水分解によって得た二糖，三糖，および六糖は，基本構造単位と，その繰り返し構造を有している。構造解析の有力な手段である ^{13}C-NMR スペクトルを測定し，多糖構造